

No.272



青森県理学療法士会ニュース

平成17年度拡大理事会ならびに士会長会議報告

県士会長 伊藤 和夫

日 時	平成17年10月6日 10時～16時
場 所	名古屋市 名古屋国際会議場
議 案	1) 平成17年度前期事業報告 2) 協議事項 (1) 診療報酬・介護報酬改定について (2) 会員証について (3) 10万人プロジェクト、その他

報告

今年度よりブロック長の任を引き受けることにより、拡大理事会にも参加することになりました。年2回ほど開催されるようです。午前中が拡大理事会、午後から士会長会議という日程でした。各代理議会の案件は、当日配布されました。報告事項が7件、審議事項が10件ありました。議事進行は会長が行いました。2時間ほどでこれらの審議承認を行うのですから、事前調整としての部局会議がされた上でのものと考えます。審議事項として各部局からの提出議題は以下のごとくです。診療報酬に関する緊急合同会議(9/19)、運動器の10年、部員の追加、WCPT-AWP会議、賛助会員入会、城西医療福祉大学設立要望、研究助成規定、後援依頼、等です。また報告事項としては、会員証の導入、専門理学療法士認定報告、協会ホームページ運用、各部・委員会議事録、各出展報告、等でした。

特記すべきこととしては、会員39,150名、うち新入会員4,298名、会費未納者8,063名(10月現在)、会員証のクレジット会社は日本信販に決定、介護保険部研修会は18年2月23-25日、東京にてテーマ「訪問リハ」150人規模、生涯学習の更新期限は12月末、10月から特定療養費(用届出)上でのリハの適用(混合診療可能)、40周年記念参加者が少ないこと、厚生労働大臣賞受賞者決定(当士会からは伊藤日出男氏)、宮崎リハ学院の台風被害による図書寄付依頼、等がありました。

午後の士会長会議の議長は、次期全国研修会担当の長崎県士会会長と黒川理事が行ないました。会長挨拶では、現在養成校は186校、1学年定員9,088名、10年以内に会員数10万人に到達予定とのことです。診療報酬についての意見交換が多くなされました。9月に緊急会議が招集され私も参加しました。今回、臨床整形外科医会から「運動器リハビリテーション料の新設」要望書が出されており、理学療法士以外でも請求できる内容になっています。協会の対応は、運動器リハ料そのものには賛成だがPT以外の請求には当然反対の立場であり、最終的には資格制度に関する嘆願書も検討しているようです。また、政治との関わり(代議士)なしには困難であるとも言っています。参加者からは、診療報酬に関しての情報を少しでも良いから早く知らせてほしい、会員に早く周知したい、各情報の正確な徹底をという要望が多く出されました。いずれにしても今の政府は医療費削減がモットーですから、上がる部分があれば当然下がる部分も出ます。職能団体ですから自らの立場を主張するのは当然ですが、病院勤務の我々にはリハも含めたトータルな影響の検討も大事かと考えます。これらの詳細は協会ホームページもしくは外科系学会社会保険委員会連合<http://www.gaihoren.jp/>等を参照してください。帰りの時間の関係上、30分ほど早く退出し、今回は役員講習会(政治連盟の意義と必要性)には残念ながら参加できませんでした。以上、簡単ですが士会長会議の概要報告といたします。

平成17年度第4回青森県理学療法士会理事会議事録要約

日 時：平成17年10月15日（土）午後6時～8時30分

場 所：青森県立保健大学

出席者：伊藤和夫、相馬光明、川口 徹、小村 博、中村正直、村上三四郎、佐藤比呂子、後藤明教、
佐藤 洋、梅村孝博

監 事：三浦時男、山田 伸

案件：

・報告事項

1) 諸会議報告

- ・全国士会長会議報告（別記参照）
診療報酬・介護報酬改定に関してや、
会員証発行などについて

2) その他

- ・協会表彰委員に三浦時男氏就任（平成
17年7月より2年間）

・協議事項

1. 各部局より

1) 事務局

- ・総務部：休会終了会員へ連絡調整を図
る
- ・財務部：会費未納者は、あと16人
- ・福利厚生部：10月15日、十和田市に
於いてポーリング大会開催
12月3日、忘年会予定

（会場検討中）

2) 学術局

- ・第13回青森県障害者スポーツ大会の
サポートを行った（8月28日）。
- ・12月3日、「障害スポーツ」「世界
の理学療法」をテーマに研修会開催予
定
12月4日、症例検討会を開催予定、
会場は県立保健大学

3) 社会局

- ・10月30日、第1回地域リハビリテ
ーション研修会を県立保健大学にて開催
予定

- ・平成18年1月14日、PT・OT合同で
地域リハビリテーション研修会を開催
予定
- ・診療報酬・介護報酬改定に関する情報
収集

4) 外交局

- ・健康祭り等で利用するボールペン、テ
ィッシュを購入
- ・WPCT アジア大会では、特に国際交
流は計画しない
- ・ホームページの充実について検討

5) 組織検討委員会

- ・支部化に関しての意見等の提供をホー
ムページに載せた。
- ・会員からの意見は現在までのところ無
し。
- ・10月29日に第1回検討委員会を開催
予定。
（検討事項についての資料は事前に
郵送し、1～2回の委員会で意見
集約したい）

6) 第24回東北理学療法士学会準備委員会

- ・学会期日：平成18年11月11日～12
日
場 所：八戸市公民館
テーマ：新たな介護保険制度におけ
る理学療法の展開
内 容：特別講演、シンポジウム、
一般演題発表、等

2. その他

上半期の会計監査について

第30回青森県理学療法士学会のご案内

第30回青森県理学療法士学会
学 会 長 尾 田 敦
準備委員長 長内 央臣

謹啓

晩秋の候、会員の皆様におかれましては、益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、前回ニュースでご案内申し上げましたが、演題募集を随時、受け付けておりますので、新人、ベテラン会員問わず、会員諸氏の積極的なご応募をお待ちしております。

謹白

1. 応募資格

- 1) 筆頭者は青森県理学療法士会会員に限ります。
- 2) 原則として、演題は未発表のものに限ります。

2. 募集期間

10月1日より、随時、募集を受け付けています。

演題仮登録の締め切りは、2005年12月16日（金）、抄録の締め切りは、2006年1月13日（金）です。

応募方法・発表形式については、ニュース前号（No.271）を参照して下さい。

3. 応募先および問い合わせ先

〒036-8511 弘前市野田2-2-1

津軽保健生活協同組合健生病院 リハビリテーション科

山内 茂寛 宛

TEL 0172-32-1171 FAX 0172-35-1678

メールアドレス：aomoricpt30th@yahoo.co.jp

生涯学習基礎プログラム2005年度更新締め切り迫る！ (2005年は更新年です、期日は12月31日までです！)

学術局長 村上 三四郎

2005年は生涯学習基礎プログラムの更新および専門領域研究会の更新を行う年です。該当者は必ず申請して下さい(専門理学療法士の先生方が未更新の場合は専門理学療法士の更新年に更新が出来ませんのでご注意ください。)

更新申請が必要な会員(更新フローチャートを、生涯学習便り 23 に示す)：2000年更新者及び新人教育プログラム(以下、新プロ)を2003年度までに修了したものの。

新プロ1999年(平成11年)度以前修了(基礎プロ2000年度以前開始(新プロ特例措置者も含む))：	10単位以上
新プロ2000年(平成12年)度修了(基礎プロ2001年(平成13年)度開始)：	8単位以上
新プロ2001年(平成13年)度修了(基礎プロ2002年(平成14年)度開始)：	6単位以上
新プロ2002年(平成14年)度修了(基礎プロ2003年(平成15年)度開始)：	4単位以上
新プロ2003年(平成15年)度修了(基礎プロ2004年(平成16年)度開始)：	2単位以上

2005年度休会中会員の取り扱い：2005年休会中会員については、2000年～2009年の20単位のうち、休会年×2単位を減じた単位数を2010年に報告する。

更新方法：

提出書類

- 1) 申請書
- 2) 生涯学習印の押印された生涯学習手帳のコピー

生涯学習手帳に検印されていない場合は、学会、研修会、講習会等の参加証、領収証、修了書あるいは抄録

- 3) 返信はがき(表に、送付先住所及び氏名を明記)

提出先：〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-8-5
日本理学療法協会事務局

提出期限

平成17年5月～12月31日消印まで。更新結果については、返信はがきで通知いたします。

生涯学習基礎プログラム更新申請書は、31巻7号・32巻1号協会ニュースにも掲載されております。

2005 年生涯学習基礎プログラム更新申請書

(専門領域研究会の更新も含む)

私は生涯学習基礎プログラムの履修状況を報告いたしますので、更新をお願いします。

平成 年 月 日

勤務先 _____

住 所 _____

会員番号 _____

氏 名 _____ 印

年度	履修単位	協会入会年	昭, 平	年度
平成 12 年度	単位	新人教育プログラム修了年		平成 年度
平成 13 年度	単位	専門領域登録年		平成 年度
平成 14 年度	単位			
平成 15 年度	単位			
平成 16 年度	単位			
合 計	単位 (必要な単位 : 10 単位以上)			

単位計算	参加単位	発表加算
協会主催の学術 (専門領域含む)	2 単位	4 単位
ブロック主催の学術	2 単位	3 単位
士会主催の学術	1 単位	2 単位
隣接学際領域主催の学術	1 単位	2 単位

提出書類

- 1) 申請書
- 2) 生涯学習手帳の (履修記録) のコピー
- 3) 返信はがき (表に送付先の住所。氏名を記載)

提出期限

平成 17 年 5 月 ~ 12 月 31 日消印有効

百石町健康まつりの報告

国民健康保険百石病院 板井 英樹

10月16日(日)百石町いきいき館にて催された恒例の健康まつりは、“あなたの体力年齢は？”というタイトルにて、リハビリテーションコーナーを展示しました。

握力測定、体前屈、片脚立位保持、最大一步幅、昇降台の簡易的なテストを実施し、おおよその体力年齢をお伝えするといったかたちを取りました。ほとんど日常生活に問題のない住民が来場されるため、運動習慣を提案・助言するには、筋力・柔軟性・バランスといった結果項目をもとにしましたが、比較的筋道をつけ説明しやすかったと感じました。

また、今年も、例年通り重心動揺計での開閉眼検査を実施しましたが、毎年参加されている大腿義足の方は、過去2年間の紙面結果を持参して来て頂きました。

過去の紙面を見比べ、外周面積など維持・向上が達成されていることを伝え、日々の自主運動の成果を褒めたたえ、とても嬉しそうにされていました。言うまでもなく、こちらも嬉しくなりました。SF-36(自覚的健康観)のグラフ結果も利用し、上記の評価と併せ多面的に時間をかけて相談できたことも、日々の診療では出来ない充実がありました。

リハビリテーションコーナーに陣取った、百石町住民で構成されている自主リハビリ活動グループによるバザーも、11月20日八戸に行われる認知症の講演開催の資金にあてがうため完売を達成したようでした。

百石町での開催は、今年で最後になりますが、来場者に同等の対応が出来ることを目指し、来年も取組められればと思います。健康増進アプローチに興味のある方は御声をかけて頂ければと思います。美味しい昼食が付きますよ。

最後に、ボランティアとして参加してくれた機器業者の方には、厚く御礼を申し上げたいと思います。

八戸市健康祭りの報告

八戸市民病院 田村 拓也

平成17年10月2日(日)に八戸市健康祭りが催された。今年のコネプトは「健康日本21」に準じた「健康はちのへ21」である。厚生省が関与している健康日本21推進全国連絡協議会によると、「21世紀における国民健康づくり運動(健康日本21)」では、健康寿命の延伸等を実現するために、2010年度を目途にした具体的な目標等を提示すること等により、健康に関連する全ての関係機関・団体等を始めとして、国民が一体となった健康づくり運動を総合的かつ効果的に推進し、国民各層の自由な意思決定に基づく健康づくりに関する意識の向上及び取組を促そうとするものである。国においては、これからの少子・高齢社会を健康で活力あるものにするため、生活習慣病などを予防し、壮年期死亡の減少、健康寿命の延伸等を目標とする21世紀における国民健

康づくり運動「健康日本21」を提唱し、広く国民に呼びかけているところである。このようなバックグラウンドの中で行われている今回のような行事は、まさに健康日本21の一端を担うことになるであろう。医学には、病気になってから治療する治療医学と、病気にならないように注意する予防医学が存在する。従来では治療医学が医学の中心にあったように思えるが、近年ではメタボリックシンドロームや死の四十奏などの治療にも代表されるように、予防医学は基礎研究のみならず、臨床においても診療されるようになってきている。

今回我々は、重心動揺検査や柔軟性、筋力、BMI等を検査するコーナーと一般的な健康相談のコーナーを設置し、来場者の個別的な相談に対応した。来場者のほとんどが問題となる基礎疾患を有していない健常な成人140名であった。しか

し、そこで相談されたものには肥満・転倒・血圧や、重症ではない整形外科的な肩・腰・膝の痛みなどの相談件数が多かった。言い換えれば、これら来場者は年齢を重ね重症化し、病院を受診する予備群になるかも知れない。そこで、このような機会を経験することにより、少しでも予防しようとする心構えを持ってくれたら、このようなイベントは厚生省の目指している予防医学に貢献できるのではないかと思われた。こういったイベントは結果をすぐ出せるルーチンの行事ではない。しかも、市民全体が、こぞって参加するものでもない。そういった意味でも、予防医学を市民一人ひとりに周知してもらうための、これは、ほんの序説にしか過ぎないものだ、私は思っている。リハビリテーション医学は元来治療医学である。しかし今後、医学界の風潮を読みながら予防医学的側面も取り入れた、リハビリテーション医学領域の拡

大も図られていくべきだと思っている。青森県理学療法士会が、八戸市健康祭りに参加して5年目を向かえた。このイベントだけで終わるのではなく、できるだけ多くの市民に予防医学を広めるための、良い方法を検索できる場になってくれるよう心より願う。



太陽、願い、希望の光

健康日本21シンボルマーク

最後にこの場をお借りして、八戸市健康祭りに、ご協力くださった諸先生方に心より感謝申し上げます。

日本理学療法士協会全国研修会に参加して

シルバー病院 平山麻子

メインテーマ「動作の研究 座る・立つ・歩くー」をもとに平成17年10月7、8日、名古屋国際会議場で開催された第40回日本理学療法士協会全国研修会に参加してきました。

1日目は特別講演として「健やかに立つ・歩くメカニズム」の講演があり、また並行して神経系、内部障害、理学療法基礎、生活環境支援等の各研究部会からの姿勢、身体動作に関する講演がありました。その中で興味深かったのが神経系専門領域研究会の「中枢神経障害における座位姿勢と嚥下障害」の講演でした。嚥下運動の阻害因子の解明や評価法、また嚥下運動に座位姿勢の与える影響が大きいことや理学療法士が嚥下運動障害の改善に果たせる役割があることが提言されていました。また理学療法だけでなくチームでアプローチしていくことが必要になっていくと思われNSTへの活動につなげていければよりいっそう効果が高いのではという印象を受けました。

2日目は「運動器の10年 世界運動と理学療法戦略」の公開講座では、「運動器10年」の活動事業や整形外科と理学療法の連携についての講演がありました。また特別講演として中枢神経系の再生・再建と脳機能の活性化、教育セミナー3題、テクニカルセミナー3題が並行してありました。参加者も多く、会場の椅子に座れず、床にしゃがみこんで講演を熱心に聞く人たちが会場に入りたくても満員になったため入れなくなったりして、全体的に熱気のある研修会でした。

今回研修会に参加して多角的に理学療法を考えていくことや、改めて基礎知識の重要性を実感しました。

それにしても、名古屋まで新幹線で片道5時間・・・やっぱり遠かった・・・

PNF臨床編印象記

ときわ会病院 山岸 恵子

9/23 ~ 25、青森県立保健大学で行われた現職者講習会「PNF - 臨床編 - 」に参加し、勉強させていただく機会がありました。基礎編を受講しておらず、大学で PNF の講義を受けたのも 2 年前... ということで、臨床編を受講して理解できるのだろうかと不安な面が大きかったのですが、「ときわ会病院の新人 3 人で何かコツをつかもう！」という気持ちで参加しました。

実際に高橋護先生の講義を受講してみると、まずそのわかりやすさに感動しました。“PNF とは上肢・下肢のそれぞれのパターンがあって、対角線で、螺旋で... 神経筋を促通するパターンで... ???” という私の中で断片的でしかなかった PNF のイメージが、まとまった形になったと思います。実技はさらにわかりやすく、その上臨床ですぐに利用できそうな手技ばかりで、高橋先生が PNF を元に考え出してきた「患者さんにとって簡単でやりやすいように応用した」手技だということです。講義・実技の内容を簡単にまとめてみると...

通常の人であれば上肢・下肢の運動パターンに伴い、体幹は自動的に動くものだが、中枢神経疾患の人はこの体幹の動きに異常が生じやすい。そのために体幹の動きを引き出していく必要がある。その方法として、ジムボールを使って、【左右対称の姿勢にする・つまり正常な筋緊張の状態を再学習してもらう】 【体幹の正常な動きを引き出す】 【安定性を引き出していく】・【動作を正常なパターンに近づけていく】など、さまざまな手技が考えられる。

...といった感じでした。

具体的にどういった手技なのかを知りたい方は、ぜひぜひ高橋先生の講習会に参加してください。楽しい、わかりやすい、使える！の三拍子そろっております。

今まで、PNF は上肢・下肢のパターンでしか認識していませんでしたが、今回の講義を受けて体幹にポイントを置くことの重要さを感じました。同時に、基本的なことを学んで満足するのではなく、臨床で応用できる方法を考えていくことが大事だということに気づきました。日々精進、日々努力でこれからも頑張っていきたいと思います。

余談.....実際に私も講習会で学んだことを次の日から患者さんに対して実施してみました。しかし、なかなかうまくいかず...(泣)やはり、経験を積まなければ!

蓉会村上病院 松本智也

平成 17 年 9 月 23 日 ~ 25 日の3日間「PNF - 臨床編 - 」を受講したので、講習会の内容や印象深かったことなどをつれづれなるままに記述していきたいと思います。

講師は皆様ご存知の高橋護先生であります。高橋先生が3日間の講習会中、一貫しておっしゃっていたことは、患者様が異常パターンで運動を行っていたら正常パターンで運動ができるようにする。そのためには正常パターンで運動が出来るようにPTが環境を整えることが必要であるということでした。環境を整えるとういのは補助具を使用したり、PNF基本パターンを随所に取り入れた運動を用い、身体を運動しやすい状態にするということだと私は理解したのですが、受講した皆様方はこの意見に賛同してくれるでしょうか。ここで一番関心を寄せるのは、補助具ばかり、PNF基本パターンを随所に取り入れた運動がどのようなものかということだと思いますが、ここでは割愛させていただきます。興味がある方は受講なさってはいかがでしょうか。仕事に役立つ情報満載でしたよ。

今回、私が一番感銘を受けたのは、高橋先生自身が現在でもPNFという手技を模索し進歩させようとしている姿勢でした。教科書的にこうだけど臨床では使えない、だからこのようにすると使いやすい、というのを控えめにいらっしゃる高橋先生を見て、社会人のあるべき姿を学びました。プロジェクトXに登場しなくても、カッコイイ社会人は沢山います。自分も秀逸な技を持ちながら慢心せず、日々の努力を怠らない男前な社会人になろうと思いますので、ご期待下さいませ。

- ご案内 -

第3回青森県理学療法士会研修会のお知らせ

学術局長 村上 三四郎

下記の要項で第3回の青森県理学療法士会研修会を開催します

日時：平成17年12月3日(土) 14:00～17:10

会場：青森県立保健大学

13:30～ 受付

14:00～15:30 テーマ1：「障害者スポーツ」

講師：成田寛志 先生 (青森県立保健大学健康科学部理学療法学科)

15:40～17:10 テーマ2「青年海外協力隊の活動の実際」

講師：瓜田一貴 先生 (弘前大学医学部附属病院リハビリテーション科)

参加費：1テーマ毎に500円

・参加申込は特に必要ありません

この研修会はテーマ1が新人教育プログラム「理学療法の専門領域」、テーマ2が「世界の理学療法」、および「生涯学習基礎プログラムの単位認定の対象になります。標記以外への読み替えは下記まで相談してください。

・問い合わせ先 三沢市立三沢病院 リハビリテーション科 村上三四郎

〒033-0001 青森県三沢市中央町4丁目1-10

電話：0176-53-2161(内線321)

FAX：0176-52-6023

e-mail:misawahpriha@yahoo.co.jp

平成17年度青森県理学療法士会症例検討会のご案内

学術局長 村上 三四郎

研修部 佐井川 匠秀

平成17年度青森県理学療法士会「症例検討会」を開催いたします。昨年度より従来の「定例研修会」のスタイルを変更し、発表後のフリーディスカッションの時間を大幅に設けました。発表者による話題提供をもとに、若手・先輩理学療法士が多いに語り合える場を提供したいと存じます。

若手理学療法士は先輩理学療法士の貴重な意見を聞ける絶好の機会です。また先輩理学療法士にとっても日頃の成果や悩みを気軽に討論できる場となることと思います。つきましては発表者のみならず、若手理学療法士から先輩理学療法士まで多くの会員の皆様のご参加をお待ちしております。

- 記 -

と き：平成17年12月4日(日)9:00～(8:30受付開始)

と ころ：青森県立保健大学 B棟1F講義室B-5(予定)

参加費：500円

*この研修会は新人教育プログラムの単位認定の対象となっており、参加者には「症例検討」、発表者には「症例検討」がそれぞれ認定されます。

プログラム

各セッションの司会は未定です。

【セッション1 9:00～9:50】

中枢神経疾患の症例(仮)

千葉 直

むつりハビリテーション病院

脳卒中患者の理学療法(仮)

高松 顕子

黎明郷リハビリテーション病院

脳出血右片麻痺の症例(仮)

内田 有美

弘前脳卒中センター

【セッション2 9:55～11:00】

脳出血右片麻痺の症例(仮)

相馬 千尋

弘前脳卒中センター

脳卒中患者の理学療法(仮)

佐々木 陽子

黎明郷リハビリテーション病院

中枢神経疾患の症例(仮)

浅田 恵

むつりハビリテーション病院

頸部の緊張が強く座位不安定な脳卒中片麻痺患者への対応(仮)

桜田 由紀子

介護老人保健施設ハートランド

【フリーディスカッション 11:05～12:00】

【昼 食 12:00～12:50】

【セッション3 12:50～13:40】

両側アキレス腱断裂後、縫合術を施行した症例について(仮)

原 悠子 三沢市立病院

整形外科疾患の症例(仮)

三浦 潔子 八戸赤十字病院

免荷期間の延長によってモチベーション低下を起こした症例(仮)

平野 望 青森市民病院

【フリーディスカッション 13:45～14:20】

*参加者の方々へのご案内

昼食を挟みますが各自でご用意下さい。

*発表者の方々へのご案内

発表時間は7分、質疑時間は7分です。

発表は)パソコンプロジェクター(Windows版 Power Point使用にてFD・CD・フラッシュメモリに保存したもの)、)OHP、)レジメ(発表原稿とは別にA4版用紙1枚程度で作成して下さい。尚、11月25日(金)までに下記連絡先にご送付頂ければ、コピーはこちらで行います。)のいずれかの方法でお願いいたします(併用でも可)。

発表方法は11月25日(金)までにご連絡下さい。

演題未定・(仮)の方、演題に変更のある方は、11月25日(金)までにタイトルをお知らせ下さい。

発表者の受付は前日の研修会終了後、もしくは当日の朝の参加受付時に行います。

当日発表者はフリーディスカッションに必ずご参加下さい。

- 連絡先 -

芙蓉会 芙蓉会病院 理学療法室

佐井川 匠秀

〒030-0133 青森市雲谷字山吹93-1

TEL.017-738-2214 FAX.017-738-2249

E-mail fuyo-rigaku236@fuyoukai.or.jp

忘年会のお知らせ

厚生部部長 藤田 俊文

平成17年12月3日(土)に平成17年度青森県理学療法士会症例検討会が行われた後に、毎年恒例の忘年会を開催致します。開催地は青森市となっておりますが、時間・場所・会費など詳細は未定です。決まり次第、連絡網にてお知らせ致します。お手数ですが、参加予定の方は、施設名、参加者氏名をEメール、電話、FAXのいずれかで弘前脳卒中センター藤田までご連絡下さい。

多数の会員の御参加をお待ちしております。

〒036-8104 青森県弘前市大字扇町一丁目 2番地1

T E L : 0172 (28) 8220 FAX : 0172 (28) 7780

E-mail: pt_staff@hirosakistroke-c.jp(リハ科全体のアドレスのため、本文中に宛名が必要)

～理学療法士求人情報～

国民健康保険五戸総合病院

募集職種:非常勤理学療法士・作業療法士 急募
待遇:詳細は面談にて
問い合わせ先:〒039-1517 青森県三戸郡五戸町字沢向17-3
TEL;0178-61-1200(内線151)
FAX;0178-61-1215
担当;リハビリテーション診療科 木村

介護老人保健施設なみおか

職種:PT、OT、ST
勤務形態:常勤
業務形態:入所・通所リハビリテーション
勤務時間:月～金 9:00～17:00
その他:勤務時間は相談に応じます。
問い合わせ先:青森市浪岡大字杉沢字山元454 - 238
Tel:0172 - 69 - 1120
担当:事務長 成田まで

【財務部通信】

17年度会費納入について

会費自動引き落とし者へ

次の方は、下記へ振り込みをお願いします。

木野美也子、佐々木梨香

会費自動引き落とし以外者へ

次の方は、下記へ振込をお願いします(10月27日現在)

盛田 寛明、奈良 剛、成田 康子、三浦 純子、栗林 輝生、澤田 隆憲

岩織 好信、岩井 和広

李 相潤、獅子内善行 12,000 円のみ

舘山 智格 11,000 円のみ

会費納入方法は下記の通りです。早めに振り込んで下さい。

士会費 12,000 円の振込先 振込み手数料 210 円

みちのく銀行 黒石支店 店番 024 口座番号 0117013

名義名 青森県理学療法士会 代表者 佐藤 洋

協会費 11,000 円の振込先 振込み手数料 120 円

郵便振替で 口座番号 00130-3-78642

加入者名 社団法人 日本理学療法士協会

通信欄に

記入例 [平成17年度会費 1名分 佐藤洋 8692] 協会会員番号
と記入して下さい。払込人住所氏名は、施設名の住所氏名で結構です。

尚、領収証が必要な方は、下記へ御連絡下さい(昨年、連絡を下された施設には入金を確認できれば送付します)。また、どうしても6月15日まで納入できない人は、自動引き落としにして下さい(振込手数料無料、公共料金と同じく忘れなくて済む)。連絡を下されば引き落としの申込書を送らせて頂きます。どうぞ御協力お願いします。

不明な点は 国立青森病院 リハビリテーション科
佐藤 洋
TEL 0172-62-4055(271)
E-mail rehab@aomori.hosp.go.jp
(リハ科全体のアドレスのため、本文中に宛名が必要)

【ニュース編集部通信】

今回の原稿締切は、平成17年11月22日(火曜日)です。
原稿を依頼された方、もしくは掲載記事をお持ちの方は、次頁の各支部担当に
フロッピーディスク、FAX、E-mailのいずれかにて、送付して下さい。

青森県士会ホームページアドレス

<http://www.aa.alpha-net.ne.jp/ptaomori/>

§ ニュース編集部支部担当者 §

東青・むつ下北：工藤 寛教(あおもり協立病院)

〒030-0847 青森市東大野2丁目1番地10号 TEL 017-762-5500 FAX 017-729-3260

E-mail: celeste_urg1@mail.goo.ne.jp

(電話・FAXは病院、メールアドレスは工藤先生個人のもので、ご注意ください。)

三八・上十三：川口 恵理(シルバー病院)

〒039-1161 八戸市河原木字八太郎山10-444 TEL 0178-28-4000 FAX 0178-20-4962

E-mail: ptsilver4000@yahoo.co.jp

(リハ科全体のアドレスのため、本文中に宛名が必要)

中弘南黒・西北五：藤田 俊文(弘前脳卒中センター)

〒036-8104 青森県弘前市大字扇町一丁目2番地1 TEL 0172-28-8220 FAX 0172-28-7780

E-mail: pt_staff@hirosakistroke-c.jp

(リハ科全体のアドレスのため、本文中に宛名が必要)

事務局ニュース編集部長：梅村 孝博(東北メディカル学院)

〒039-1522 五戸町字苗代沢3-6 TEL 0178-61-0606 FAX 0178-61-0034

E-mail: pt.umemura@rinken.ac.jp

編集委員：伴 久美子（黒石病院）
工藤 寛教（あおもり協立病院）
藤田 俊文（弘前脳卒中センター）
川口 恵理（シルバー病院）
豊嶋 大輔（八戸城北病院）
加藤 義人（なかざわスポーツクリニック）
久保 稔（八戸整形外科クリニック）

外交局広報部（HP 担当）：安田 友久（青森労災病院）

////////////////////////////////////
編集後記

最近の中・高校では、授業の一貫でインターシップが行われていますが、当院でも今まで何校か来ました。その中に、私の母校の高校生達も来ていました。

意外にも（！？）生徒達は、熱心に患者様と話をしたり、手伝っているのを見て、感心しました。私達の時は、このような事はなかったので、今の後輩達をちょっとうらやましく思いました。 （文責：伴）
////////////////////////////////////

奥 付

編集；青森県理学療法士会
発行；PT 事務局・ときわ会病院リハビリテーション科内
〒038-1216 南津軽郡藤崎町榊字亀田2-1
PHONE・FAX 0172-65-3698
E-mail；ptaomori@m16.alpha-net.ne.jp